

西産建発第 278 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

西米良村長 黒木 定 藏



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付け 国道企第 37 号により依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案 (案)

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮崎県 西米良村

○現状

本村では、国道 219 号 (延長:31.24Km) と 265 号 (延長:34.16Km) の 2 路線が通過していますが、国道 219 号では改良率 48.5%と低く、急病人発生時には隣接の西都市救急病院まで救急車による搬送も 60 分以上の時間を要する。又、既設の路面舗装施設、法面保護施設、路側帯の擁壁・ブロック施設等道路ストックの老朽化により降雨時の災害発生頻度も高く、大規模災害となると孤立することもあり住民生活に多大の影響を及ぼしている。

国道 265 号では、改良率:33.1%と低く法面保護施設、路側帯の擁壁・ブロック施設等道路ストック等が施されていない箇所が多数あり降雨、台風等の災害時には、長期間の通行止めを強いられ木材搬出等で林業者への被害は甚大である。

○課題

道路特定財源は平成 21 年度から一般財源化する事となっているが、地方道路 (国道 219 号等) は今まで都市部の整備が完了するのを待ち暫時、改良拡張される事を期待していた我々は納得できないので実なる見直しを願うものである。又、道路中期計画を 5 ヶ年とされたが、現実性の低い効率性、合理性の根の計画では国民生活を支える社会資本整備には程遠いと言わざるを得ないので見直しする必要かあると思われる。

特に、地方道は国民の生命・財産・環境等幅広い公益性と安全・安心の確保に資する道路であるので利用量、経済効果のみで計るべきではない。

近い将来、道州制等広域行政システムの構築を目指すためにも長期的、広域的見地からの道路計画を策定し、計画的に中心都市 (州都方面) に向けた国道の早期完全整備を優先に行うことにより地域問題格差の解消と国民の安全、安心、発展を目指すべきである。

今後の道路行政についての意見・提案 (案)

②-1 地域の現状と抱える課題

宮崎県 西米良村

○現状

地方の活性化と住民生活の効率化の手段としては、高速自動車道未着工区間の早期着工・完成が上げられますが、宮崎市と熊本市を結ぶ一般国道としては総延長 206.9Km の国道 219 号が最短と考えられます。様式①でも記述いたしましたように降雨時の災害発生頻度が高いことと併せて、特曲箇所が多いことや、隧道幅員が狭いことにより大型自動車の離合不可能な箇所が存在すること、安全施設の老朽化により通行車輛の安全確保が厳しい等から効率的な利用がなされていない。

又、本村の長期総合計画による、平成の桃源郷・小川作小屋村づくりについても大型バスが通行できない等、地域振興を阻害する要因ともなっており早急な改良が必要である。

○課題

地域振興対策として、カリコボーズの休暇村・米良の庄作りとして、八つの庄づくりやワーキングホリデー制度、語り部と神楽のコラボレーション、山菜まつり等々多彩な取り組みを村民挙げて実施しているが、西都市～西米良間の国道 219 号は特曲や幅員狭小箇所や直立する法面等が多く都市生活者(特に女性)が危険を感じ運転することができないと言われているがこの国道の実態である。泡揺る努力をしても生命線である国道がこの様な状態では地域振興も、医師不足も、経済性の向上も図れない。

真に必要な道路とは、人命を守り救う、そして、生活者を守り環境を保全する道路も採択されるよう強く望むものである。

特曲箇所の解消や特曲箇所が連続する区間においてはトンネル・橋梁の新設によりスムーズな車輛通行が可能となれば排ガスの最小排出速度の確保により、地球温暖化防止対策の一因となることも考えられる

今後の道路行政についての意見・提案(案)

②-2 地域の目指すべき将来像

宮崎県 西米良村

本村は、平成の合併の中で自立の道を選択し、『誇りをもって住み続けられる自立・自走の生涯現役・元気村』作りを目指し、村民と行政が一体となって豊かな人づくり、活力ある産業づくり、住みたくなる村づくり、人に優しい社会づくり、伝統文化の薫るふるさとづくり、豊かな自然づくりに邁進し、その間、ワーキングホリデー制度への継続的な参加、交流人口の拡大とUターン・Iターンの増加等の効果が現れてきている。今後、この現象が継続的に増加進展するには村内を通過している国道219号、国道265号の早期の整備拡充を図ることにより、本村から隣接市町村職場への通勤が可能となる他、村外からの入込み客の増加にも繋がり、本村活性化への一層の弾みとなるものと期待するものであります。又、残された父母が高齢者となり緊急な医療を必要とする案件が増加しつつあり、尊い生命を守るためにも、風水害にも強い道路が求められる。又、森林と都市住民との交わりや自然体験等夏場を中心に累増の傾向にあり、山間地道路に不慣れの方々のあんぜんが大変憂慮されるところである。自然の豊かな恵みや効果、感動を都市住民と共有することが求められている現在、計画的道路の整備が何にもまして必要である。又、現在「平成の桃源郷・小川作小屋づくり」に着手しており、陶淵明(365年～427年)に書いた「桃花源記」の平成版に取り組むことで都市住民のニーズに応え、心の安らぎや癒しを提供し、更なる交流を図る計画である。狭い川の流れや草深き小道は当地に存在している。その風景も又、地域を挙げ再現に着手しているところである。しかし、この地に至る道路が大きなネックとなっており、早急な改良を望むものである。